



## デバイス管理の基本

次のトピックでは、Firepower システムでデバイスを管理する方法について説明します。

- [デバイス管理について \(1 ページ\)](#)
- [\[デバイス管理 \(Device Management\) \] ページ \(5 ページ\)](#)
- [リモート管理の設定 \(7 ページ\)](#)
- [Firepower Management Center へのデバイスの追加 \(7 ページ\)](#)
- [Firepower Management Center からのデバイスの削除 \(9 ページ\)](#)
- [デバイス コンフィギュレーションの設定 \(10 ページ\)](#)
- [インターフェイス テーブル ビュー \(23 ページ\)](#)
- [デバイス グループ管理 \(25 ページ\)](#)
- [Firepower 1000/2100 シリーズの SNMP の設定 \(27 ページ\)](#)

## デバイス管理について

Firepower Management Center を使用してデバイスを管理します。

## Firepower Management Center について

Firepower Management Center を使用して、Firepower システムを構成するすべてのデバイスを管理できます。デバイスを管理するには、Firepower Management Center とデバイス間に、双方向の SSL 暗号化通信チャネルをセットアップします。Firepower Management Center はこのチャネルを使用して、そのデバイスへのネットワークトラフィックの分析および管理の方法に関する情報をそのデバイスに送信します。そのデバイスはトラフィックを評価すると、イベントを生成し、同じチャネルを使用してそれらのイベントを Firepower Management Center に送信します。

Firepower Management Center を使用してデバイスを管理すると、以下の利点があります。

- すべてのデバイスのポリシーを一箇所から設定できるため、設定の変更が容易になります。
- さまざまなタイプのソフトウェア アップデートをデバイスにインストールできます。

- ヘルス ポリシーを管理対象デバイスに適用して、Firepower Management Centerからデバイスのヘルス ステータスを監視できます。

Firepower Management Center は、侵入イベント、ネットワーク検出情報、およびデバイスのパフォーマンスデータを集約して相互に関連付けます。そのため、ユーザはデバイスが相互の関連でレポートする情報をモニタして、ネットワーク上で行われている全体的なアクティビティを評価することができます。

Firepower Management Center を使用することで、デバイス動作のほぼすべての側面を管理できます。



- (注) Firepower Management Center は、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/security/defense-center/products-device-support-tables-list.html> で使用可能な互換性マトリックスで指定されている特定の以前のリリースを実行しているデバイスを管理できますが、これらの以前のリリースのデバイスでは新しい機能は利用できません。

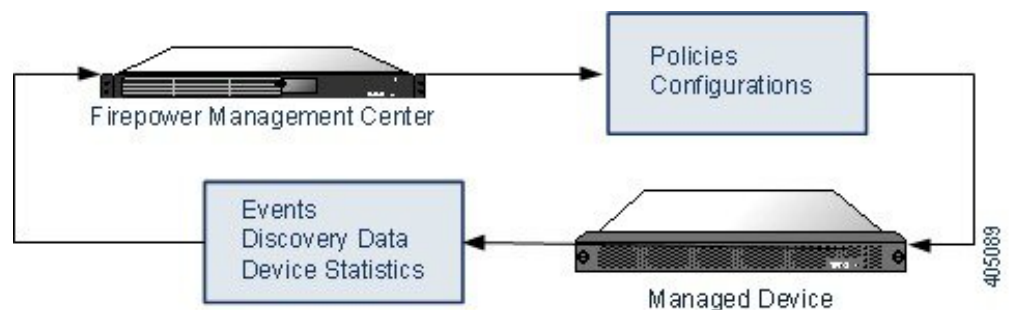
## Firepower Management Center で管理できるデバイス

Firepower Management Center を Firepower システムの展開環境における中央の管理ポイントとして使用して、次の各デバイスを管理することができます。

- 7000 および 8000 シリーズ デバイス
- ASA FirePOWER モジュール
- NGIPSv デバイス
- Firepower Threat Defense (物理ハードウェアと仮想)

デバイスを管理する際の情報は、SSL で暗号化されたセキュアな TCP トンネルを介して、Firepower Management Center とデバイスの間で送信されます。

以下の図に、Firepower Management Center と管理対象デバイスの間で送信される情報をリストします。アプライアンス間で送信されるイベントとポリシーのタイプは、デバイスタイプに基づくことに注意してください。



## ポリシーとイベント以外の機能

Firepower Management Center では、ポリシーをデバイスに展開したり、デバイスからイベントを受信するだけでなく、以下のデバイス関連のタスクも実行できます。

### デバイスのバックアップ

NGIPSv デバイスや ASA FirePOWER モジュールのバックアップ ファイルを作成、復元することはできません。

物理的な管理対象デバイス自体からそのバックアップを実行する場合は、デバイス設定のみをバックアップできます。設定データと統合ファイル（任意）をバックアップするには、管理用の Firepower Management Center を使用してデバイスのバックアップを実行します。

イベントデータをバックアップするには、管理 Firepower Management Center のバックアップを実行します。

### デバイスの更新

シスコは適宜、Firepower システムの更新プログラムをリリースしています。これらのアップデートには以下が含まれます。

- 侵入ルールの更新（新しいルールや更新された侵入ルールが含まれる場合があります）
- 脆弱性データベース（VDB）の更新
- 地理位置情報の更新
- ソフトウェア パッチおよびアップデート

Firepower Management Center を使用して、管理対象デバイスに更新プログラムをインストールできます。

## NAT 環境

ネットワーク アドレス変換（NAT）とは、ルータを介したネットワーク トラフィックの送受信方式であり、送信元または宛先 IP アドレスの再割り当てが行われます。NAT の最も一般的な用途は、プライベートネットワークがインターネットと通信できるようにすることです。スタティック NAT は 1:1 変換を実行し、デバイスとの FMC 通信に支障はありませんが、ポートアドレス変換（PAT）がより一般的です。PAT では、単一のパブリック IP アドレスと一意のポートを使用してパブリックネットワークにアクセスできます。これらのポートは必要に応じて動的に割り当てられるため、PAT ルータの背後にあるデバイスへの接続は開始できません。

通常は、ルーティングと認証の両方の目的で両方の IP アドレス（登録キー付き）が必要です。デバイスを追加する際には、FMC がデバイスの IP アドレスを指定し（[Firepower Management Center へのデバイスの追加（7 ページ）](#)を参照してください）、デバイスが FMC の IP アドレスを指定します（お使いのモデルのスタートアップガイドを参照してください。または、初期セットアップ後に設定を変更するには、[管理インターフェイス](#)を参照してください）。ただし、IP アドレスの1つのみがわかっている場合（ルーティング目的の最小要件）は、最初の通

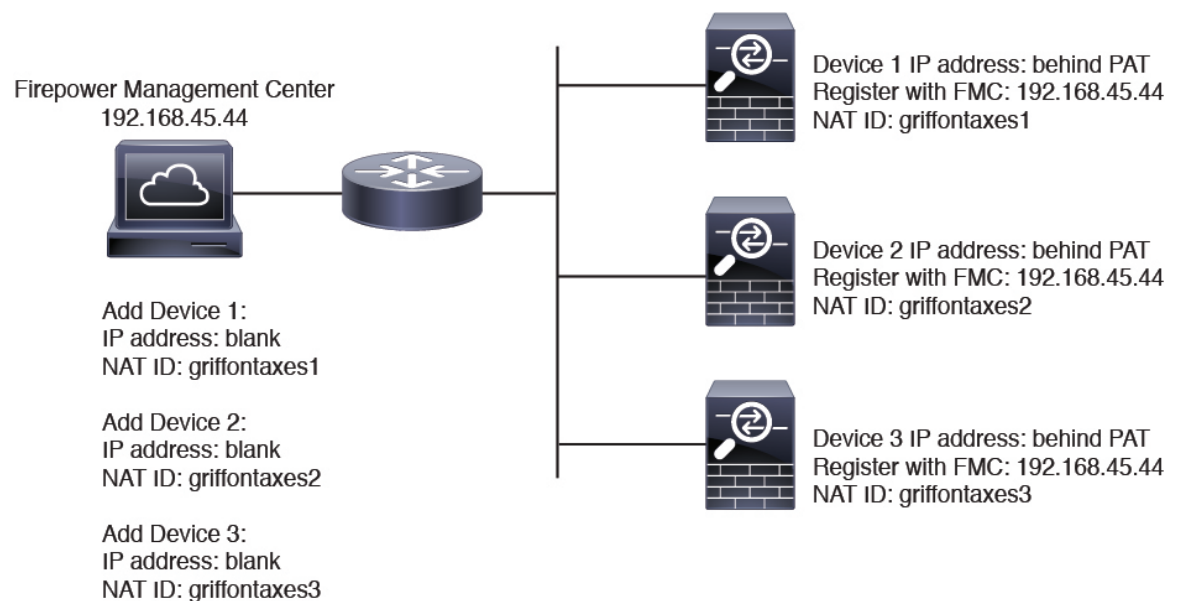
信用に信頼を確立して正しい登録キーを検索するために、接続の両側に一意の NAT ID を指定する必要もあります。FMC およびデバイスでは、初期登録の認証と承認を行うために、登録キーおよび NAT ID（IP アドレスではなく）を使用します。

たとえば、デバイスを FMC に追加したときにデバイスの IP アドレスがわからない場合（たとえばデバイスが PAT ルータの背後にある場合）は、NAT ID と登録キーのみを FMC に指定します。IP アドレスは空白のままにします。デバイス上で、FMC の IP アドレス、同じ NAT ID、および同じ登録キーを指定します。デバイスが FMC の IP アドレスに登録されます。この時点で、FMC は IP アドレスの代わりに NAT ID を使用してデバイスを認証します。

NAT 環境では NAT ID を使用するのが最も一般的ですが、NAT ID を使用することで、多数のデバイスを簡単に FMC に追加することができます。FMC で、追加するデバイスごとに IP アドレスは空白のままにして一意の NAT ID を指定し、次に各デバイスで、FMC の IP アドレスと NAT ID の両方を指定します。注：NAT ID はデバイスごとに一意でなければなりません。

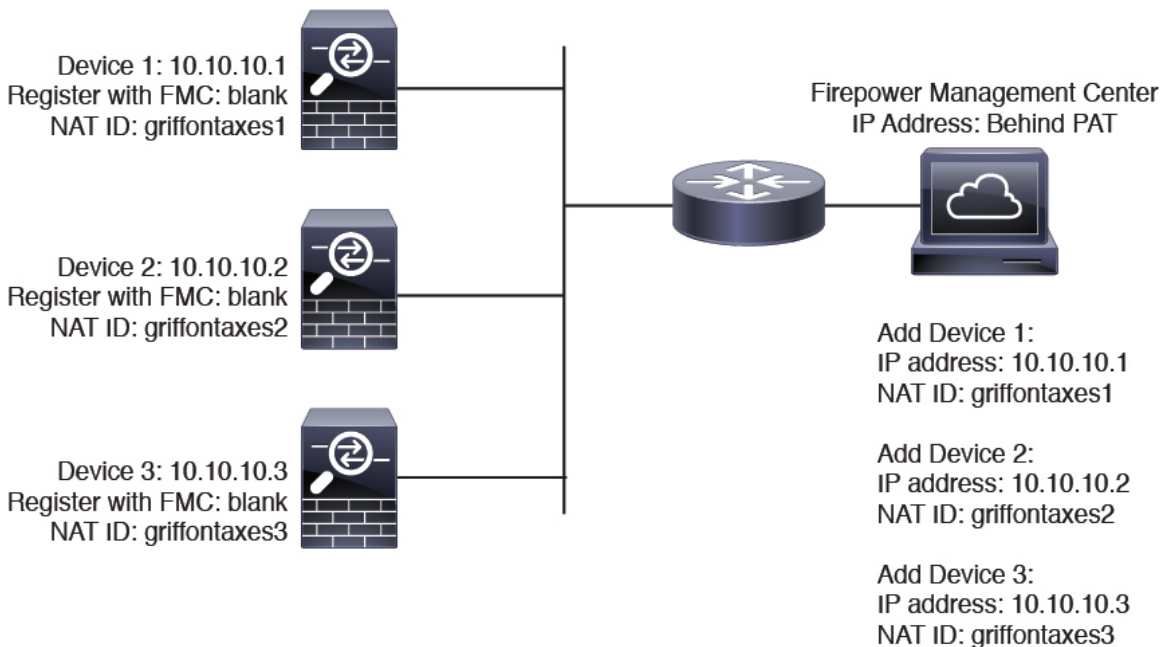
次の例に、PAT IP アドレスの背後にある 3 台のデバイスを示します。この場合、FMC とデバイスの両方でデバイスごとに一意の NAT ID を指定し、デバイス上の FMC の IP アドレスを指定します。

図 1: PAT の背後にある管理対象デバイスの NAT ID



次の例に、PAT IP アドレスの背後にある FMC を示します。この場合、FMC とデバイスの両方でデバイスごとに一意の NAT ID を指定し、FMC 上のデバイスの IP アドレスを指定します。

図 2: PAT の背後にある FMC の NAT ID



## [デバイス管理 (Device Management) ] ページ

[デバイス管理 (Device Management) ] ページには、登録されたデバイス、7000 および 8000 シリーズデバイスのハイアベイラビリティペア、およびデバイスグループを管理するために使用できる、一連の情報とオプションが表示されます。このページには、現在 Firepower Management Center に登録されているすべてのデバイスの一覧が表示されます。

このページには、Firepower Management Center によって管理されている破損したデバイスの数も表示されます。ドリルダウンして、破損したデバイスの名前や IP アドレスを特定することができます。

[表示方法 (View by) ] ドロップダウンリストを使用すると、グループ、ライセンス、モデル、またはアクセスコントロールポリシーのいずれかのカテゴリでデバイス一覧をソートして表示できます。マルチドメイン導入では、ドメイン (その導入のデフォルトの表示カテゴリ) を基準にソートして表示することもできます。デバイスはリーフドメインに属している必要があります。

ヘルスモニタリングステータスごとや、展開ステータスごとにデバイスを表示することもできます。

デバイスカテゴリに属するデバイスの一覧は、展開または縮小表示できます。デフォルトでは、デバイス一覧が展開されます。

デバイス一覧の詳細については、以下の表を参照してください。

表 1: [デバイス一覧 (Device List)] のフィールド

フィールド	説明
Name	Firepower Management Center でデバイスに使用されている表示名。名前の左側にあるステータスアイコンは、その名前の現在のヘルスステータスを示します。
グループ	管理対象デバイスを割り当てたグループ。
モデル	管理対象デバイスのモデル。
バージョン	管理対象デバイスに現在インストールされているソフトウェアのバージョン。
シャーシ	管理対象デバイスのシャーシマネージャの URL。URL を使用して、Firepower Management Center から Firepower Chassis Manager をクロス起動できます。
ライセンス	管理対象デバイスで有効なライセンス。
アクセスコントロールポリシー (Access Control Policy)	現在導入されているアクセスコントロールポリシーへのリンク。システムがアクセスコントロールポリシーを古いものとして識別すると、そのリンクの横に警告アイコン (ⓘ) が表示されます。

## 関連トピック

- [Firepower ライセンスについて](#)
- [ヘルス モニタリングについて](#)
- [アクセスコントロールポリシーの管理](#)

## 管理対象デバイスのフィルタリング

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	リーフのみ	Admin/Network Admin

Firepower Management Center が大量のデバイスを管理する場合、[デバイス管理 (Device Management)] ページの結果を絞り込むことで特定のデバイスを見つけやすくなります。

ステップ 1 [Devices] > [Device Management] を選択します。

**ステップ2** デバイスのリストを絞り込むには、[デバイス検索 (Search Device)] フィールドにデバイス名、ホスト名または IP アドレスの全体または一部を入力します。

**ステップ3** フィルタをクリアするには、[デバイス検索 (Search Device)] フィールドをクリアします。

## リモート管理の設定

### 7000 および 8000 シリーズを除くすべてのデバイス

リモート管理設定の詳細については、デバイスのクイック スタート ガイドを参照してください。

### 7000 および 8000 シリーズ デバイス

[リモート管理の設定 \(従来型デバイス\)](#) を参照してください。

## Firepower Management Center へのデバイスの追加

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	Admin/Network Admin

Firepower Management Center に1つのデバイスを追加するには、ここに示す手順を実行します。冗長性やパフォーマンスのためにデバイスをリンクする場合、次の点を念頭に置いて、この手順を実行する必要があります。

- 8000 シリーズ スタック：この手順を使用して各デバイスを Firepower Management Center に追加した後、スタックを確立します ([デバイス スタックの確立](#)を参照)。
- 7000 および 8000 シリーズ ハイ アベイラビリティ：この手順を使用して各デバイスを Firepower Management Center に追加した後、高可用性を確立します ([Firepower 7000/8000 シリーズ ハイ アベイラビリティの確立](#)を参照)。ハイ アベイラビリティ スタックの場合、デバイスをスタックしてから、スタック間のハイ アベイラビリティを確立します。
- FTD ハイ アベイラビリティ：この手順を使用して各デバイスを Firepower Management Center に追加した後、高可用性を確立します ([Firepower Threat Defense ハイ アベイラビリティ ペアの追加](#)を参照)。
- FTD クラスタ：クラスタ ユニットが FXOS に正常に形成されたクラスタであることを確認し、次の手順を使用して、クラスタ ユニットのいずれかを Firepower Management Center に追加します。FMC は、他のすべてのクラスタ メンバーを自動検出します。詳細については、[FMC：クラスタの追加](#)を参照してください。



- (注) Firepower Management Center ハイアベイラビリティを確立したか、または確立する予定がある場合、デバイスをアクティブな（またはアクティブにする予定の）Firepower Management Center にのみ追加します。ハイアベイラビリティを確立すると、アクティブ Firepower Management Center に登録されたデバイスが自動的にスタンバイに登録されます。

#### 始める前に

- デバイスを Firepower Management Center の管理対象として設定します。7000 および 8000 シリーズデバイスについては、[管理対象デバイス上のリモート管理の設定](#)を参照してください。他のモデルのリモート管理設定の詳細については、該当するクイック スタート ガイドを参照してください。
- IPv4 を使用して登録した Firepower Management Center とデバイスを IPv6 に変換する場合は、デバイスをいったん削除してから再登録する必要があります。

**ステップ 1** [Devices] > [Device Management] を選択します。

**ステップ 2** [追加 (Add)] ドロップダウンメニューから、[デバイスの追加 (Add Device)] を選択します。

**ステップ 3** [ホスト (Host)] フィールドに、追加するデバイスの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

デバイスのホスト名は、完全修飾ドメイン名またはローカル DNS で有効な IP アドレスに解決される名前です。ネットワークで IP アドレスの割り当てに DHCP を使用している場合は、IP アドレスではなく、ホスト名を使用します。

NAT 環境では、Firepower Management Center の管理対象としてデバイスを設定するときに Firepower Management Center の IP アドレスまたはホスト名をすでに指定した場合、デバイスの IP アドレスまたはホスト名を指定する必要がない場合があります。詳細については、[NAT 環境 \(3 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 4** [表示名 (Display Name)] フィールドに、Firepower Management Center でのデバイスの表示名を入力します。

**ステップ 5** [登録キー (Registration Key)] フィールドに、Firepower Management Center の管理対象としてデバイスを設定したときに使用したのと同じ登録キーを入力します。登録キーは、1 回限り使用可能な共有シークレットです。

**ステップ 6** マルチドメイン展開では、現在のドメインに関係なく、デバイスをリーフ ドメインに割り当てます。

現在のドメインがリーフ ドメインである場合、デバイスは自動的に現在のドメインに追加されます。現在のドメインがリーフ ドメインでない場合、登録後、デバイスを設定するために、リーフ ドメインに切り替える必要があります。

**ステップ 7** 必要に応じて、デバイスをデバイス グループに追加します。

**ステップ 8** 登録後すぐに、デバイスに展開する最初の [アクセス コントロール ポリシー (Access Control Policy)] を選択するか、新しいポリシーを作成します。



デバイスが選択したポリシーに適合しない場合、展開は失敗します。この不適合には、複数の要因が考えられます。たとえば、ライセンスの不一致、モデルの制限、パッシブとインラインの問題、その他の構成ミスなどです。この障害の原因を解決した後、デバイスに手作業で設定を行います。

**ステップ 9** デバイスに適用するライセンスを選択します。

従来型のデバイスでは、次の点に注意してください。

- コントロール、マルウェア、URL フィルタリングライセンスには、保護ライセンスが必要です。
- VPN ライセンスでは、7000 または 8000 シリーズ デバイスを必要とします。
- コントロールライセンスは、NGIPSv と ASA FirePOWER デバイスでサポートされていますが、8000 シリーズ Fastpath ルール、スイッチング、ルーティング、スタック、デバイスのハイ アベイラビリティを設定することはできません。

**ステップ 10** デバイスの設定時に、NAT ID を使用した場合、[詳細 (Advanced) ] セクションを展開し、[一意の NAT ID (Unique NAT ID) ] フィールドに同じ NAT ID を入力します。

**ステップ 11** [パケットの転送 (Transfer Packets) ] チェックボックスをオンにし、デバイスで Firepower Management Center にパケットを転送することを許可します。

このオプションは、デフォルトで有効です。このオプションを有効にして IPS や Snort などのイベントがトリガーされた場合は、デバイスが検査用としてイベントメタデータ情報とパケットデータを Firepower Management Center に送信します。このオプションを無効にした場合は、イベント情報だけが Firepower Management Center に送信され、パケット データは送信されません。

**ステップ 12** [登録 (Register) ] をクリックします。

Firepower Management Center がデバイスのハートビートを確認して通信を確立するまでに、最大2分かかる場合があります。

#### 関連トピック

[基本的なアクセス コントロール ポリシーの作成](#)

## Firepower Management Center からのデバイスの削除

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	Admin/Network Admin

デバイスを管理する必要がなくなった場合、Firepower Management Center からそのデバイスを削除できます。デバイスを削除すると、以下ようになります。

- Firepower Management Center とそのデバイスとの間のすべての通信が切断されます。
- [デバイス管理 (Device Management) ] ページからデバイスが削除されます。

- プラットフォーム設定ポリシーで、NTP を介して Firepower Management Center から時間を受信するようにデバイスが設定されている場合は、デバイスがローカル時間管理に戻されます。

デバイスを後者で管理するには、デバイスを Firepower Management Center に再度追加します。



- (注) デバイスを削除し、再び追加すると、Firepower Management Center Web インターフェイスによって、アクセス コントロール ポリシーを再適用するよう求められます。ただし、登録時に NAT と VPN ポリシーを再適用するオプションはありません。以前に適用された NAT または VPN 設定はすべて登録時に削除されるため、登録が完了した後に再適用する必要があります。

ステップ 1 [Devices] > [Device Management] を選択します。

ステップ 2 削除するデバイスの横にある削除アイコン (🗑️) をクリックします。

ステップ 3 デバイスを削除することを確認します。

## デバイス コンフィギュレーションの設定

アプライアンスエディタの[デバイス (Device)] ページには、詳細なデバイス設定および情報が表示されます。また、デバイス設定の一部 (ライセンスの有効化と無効化、デバイスのシャットダウンと再起動、管理の変更、詳細オプションの設定など) を変更することもできます。

### 一般的なデバイスの設定

[デバイス (Device)] タブの[全般 (General)] セクションには、以下の表に記載された設定を表示します。

表 2: [全般 (General)] セクション テーブルのフィールド

フィールド	説明
Name	Firepower Management Center でのデバイスの表示名。
パケット転送 (Transfer Packets)	管理対象デバイスがイベントを含むパケットデータを Firepower Management Center に送信するかどうかを表示します。

フィールド	説明
[モード (Mode) ]	デバイスの管理インターフェースのモード ([ルーテッド (routed) ] または [トランスパ アレント (transparent) ]) を表示します。  (注) Firepower Threat Defense デバイスの みに [モード (Mode) ] フィールド が表示されます。
コンプライアンス モード	デバイスのセキュリティ認定準拠が表示され ます。有効な値は、CC、UCAPL および None です。

## デバイス ライセンスの設定

[デバイス (Device) ] タブの [ライセンス (License) ] セクションでは、そのデバイスに対して有効になっているライセンスが表示されます。

### 関連トピック

[Firepower ライセンスについて](#)

## デバイス システムの設定

[デバイス (Device) ] タブの [システム (System) ] セクションには、次の表に示すように、システム情報の読み取り専用テーブルが表示されます。

表 3: [システム (System) ] セクション テーブルのフィールド

フィールド	説明
Model	管理対象デバイスのモデル名と番号。
Serial	管理対象デバイスのシャーシのシリアル番号。
Time	デバイスの現在のシステム時刻。
Version	管理対象デバイスに現在インストールされているソフトウェアのバージョン。
ポリシー	管理対象デバイスに現在展開されているプラットフォーム設定ポリシーへのリンク。

フィールド	説明
インベントリ	関連付けられているデバイスのインベントリ詳細情報へのリンク。このフィールドは、たとえば Firepower 2100 または Firepower 4100/9300 のコンテナインターフェイスなど、一部のプラットフォームの場合にのみ表示されます。コンテナ インターフェイスの情報を更新するには、[更新 (Update)] をクリックします。たとえば、リソース プロファイルを変更した場合は、インベントリの更新を適用することで高可用性ペアの不一致の問題を回避します。それ以外の場合、この情報はポリシーの変更を展開すると更新されます。

デバイスをシャットダウンまたは再起動することもできます。

## デバイスヘルスの設定

[デバイス (Device)] タブの [ヘルス (Health)] セクションには、以下の表に記載された情報を表示します。

表 4: [ヘルス (Health)] セクション テーブルのフィールド

フィールド	説明
Status	デバイスの現在のヘルス ステータスを表すアイコン。アイコンをクリックすると、アプライアンスのヘルス モニタが表示されます。
ポリシー	現在デバイスで展開されている、読み取り専用バージョンの正常性ポリシーへのリンク。
ブラックリスト	[ヘルス ブラックリスト (Health Blacklist)] ページへのリンク。このページでは、ヘルス ブラックリスト モジュールを有効または無効に設定できます。

### 関連トピック

[アプライアンスヘルスモニタの表示](#)

[正常性ポリシーの編集](#)

[正常性ポリシーモジュールのブラックリスト登録](#)

## デバイス管理設定

[デバイス (Device) ] タブの [管理 (Management) ] セクションには、以下の表に記載されたフィールドを表示します。

表 5: [管理 (Management) ] セクション テーブルのフィールド

フィールド	説明
ホスト	デバイスの IP アドレスまたはホスト名。ホスト名は、完全修飾ドメイン名またはローカル DNS で有効な IP アドレスに解決される名前（つまり、ホスト名）です。
ステータス	Firepower Management Center と管理対象デバイス間の通信チャンネルのステータスを示すアイコン。ステータスアイコンにポインタを置くと、Firepower Management Center が最後にデバイスにアクセスした時間を表示することができます。

## デバイスの詳細設定

[デバイス (Device) ] タブの [詳細設定 (Advanced) ] セクションには、以下で説明する詳細設定のテーブルが表示されます。上記の設定は、いずれも [詳細設定 (Advanced) ] セクションを使用して編集できます。

表 6: [詳細設定 (Advanced) ] セクションのテーブルのフィールド

フィールド	説明	サポートされるデバイス
Application Bypass	デバイスでの自動アプリケーションバイパスの状態。	7000 & 8000 シリーズ NGIPSv
Bypass Threshold	自動アプリケーションバイパスのしきい値（ミリ秒）。	ASA FirePOWER Firepower Threat Defense
ローカル ルータトラフィックを検査する (Inspect Local Router Traffic)	デバイスで、ルーテッドインターフェイスで受信した自己宛先とするトラフィック (ICMP、DHCP、および OSPF トラフィックなど) を検査するかどうかを示します。	7000 & 8000 シリーズ
高速パス ルール (Fast-Path Rules)	デバイスで作成されている 8000 シリーズ 高速パスルールの数。	8000 シリーズ

## デバイス情報の表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	Admin/Network Admin

マルチドメイン展開では、先祖ドメインは、子孫ドメイン内のすべてのデバイスに関する情報を表示できます。デバイスを編集するリーフドメインに位置している必要があります。

**ステップ 1** [Devices] > [Device Management]を選択します。

**ステップ 2** 表示するデバイスの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

マルチドメイン展開では、先祖ドメインに位置している場合、表示アイコン (🔍) をクリックすると、読み取り専用モードで子孫ドメインのデバイスを表示できます。

**ステップ 3** [デバイス (Device)] タブをクリックします。

**ステップ 4** 次の情報が表示されます。

- [全般 (General)] : デバイスの一般設定を表示します (一般的なデバイスの設定 (10 ページ) を参照)。
- [ライセンス (License)] : デバイスのライセンス情報を表示します (デバイスライセンスの設定 (11 ページ) を参照)。
- [システム (System)] : デバイスのシステム情報を表示します (デバイスシステムの設定 (11 ページ) を参照)。
- [ヘルス (Health)] : デバイスの現在のヘルスステータスに関する情報を表示します (デバイスヘルスの設定 (12 ページ) を参照)。
- [管理 (Management)] : Firepower Management Center とデバイス間の通信チャンネルに関する情報を表示します (デバイス管理設定 (13 ページ) を参照)。
- [詳細 (Advanced)] : 高度な機能設定に関する情報を表示します (デバイスの詳細設定 (13 ページ) を参照)。

## デバイス管理設定の編集

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	リーフのみ	Admin/Network Admin

(デバイスの CLI を使用するなどして) デバイスを FMC に追加した後にそのデバイスのホスト名または IP アドレスを編集する場合は、次の手順を使用して管理側の FMC のホスト名または IP アドレスを手動で更新する必要があります。

**ステップ 1** [Devices] > [Device Management] を選択します。

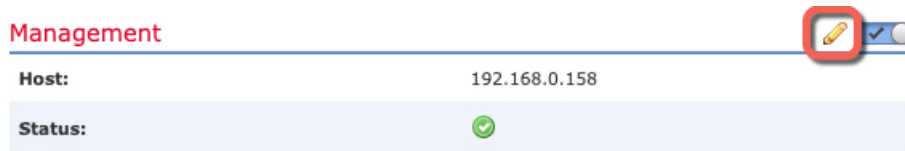
**ステップ 2** 管理オプションを変更するデバイスの横にある [Edit] アイコン (✎) をクリックします。

マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。

**ステップ 3** [デバイス (Device) ] タブをクリックし、[管理 (Management) ] 領域を表示します。

ヒント スタック構成のデバイスの場合、アプライアンス エディタの [デバイス (Devices) ] ページで、個々のデバイスの管理オプションを変更します。

**ステップ 4** [Edit] アイコン (✎) をクリックして [ホスト (Host) ] の IP アドレスまたはホスト名を編集します。



[管理 (Management) ] ダイアログボックスで、[ホスト (Host) ] フィールドの名前または IP アドレスを変更し、[保存 (Save) ] をクリックします。

**ステップ 5** (任意) リモート管理を無効にします。

スライダ (☑️) をクリックしてデバイスの管理を有効または無効にします。管理を無効化すると、Firepower Management Center とデバイス間の接続がブロックされますが、Firepower Management Center からデバイスは削除されません。デバイスを管理する必要がなくなった場合は、[Firepower Management Center からのデバイスの削除 \(9 ページ\)](#) を参照してください。

#### 次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

## 一般的なデバイス設定の編集

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	リーフのみ	Admin/Network Admin

**ステップ1** [Devices] > [Device Management]を選択します。

**ステップ2** 変更するデバイスの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。

**ステップ3** [デバイス (Device) ] をクリックします。

**ステップ4** [一般 (General) ] セクションで、編集アイコン (✎) をクリックします。

**ステップ5** [名前 (Name) ] に、管理対象デバイスの名前を入力します。

**ヒント** スタック構成のデバイスの場合、アプライアンスエディタの[スタック (Stack) ] ページで、スタックでデバイスに割り当てられている名前を編集します。アプライアンスエディタの[デバイス (Devices) ] ページでは、個々のデバイスに割り当てられているデバイス名を編集できます。

**ステップ6** [パケットの転送 (Transfer Packets) ] 設定を変更します。

- パケットデータをイベントと一緒に Firepower Management Center に保存できるようにするには、[パケットの転送 (Transfer Packets) ] チェックボックスをオンにします。
- 管理対象デバイスがイベントと一緒にパケットデータを送信できないようにするには、このチェックボックスをオフにします。

**ステップ7** [強制展開 (Force Deploy) ] をクリックし、デバイスに現在のポリシーとデバイス設定の展開を強制します。

**ステップ8** [保存 (Save) ] をクリックします。

### 次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

## デバイス設定のコピー

新しいデバイスをネットワークに展開する場合、新しいデバイスを手動で再設定する代わりに、事前設定されているデバイスの設定とポリシーを簡単にコピーすることができます。

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	Firepower Threat Defense	リーフのみ	Admin/Network Admin




### 始める前に

次の項目を確認します。



- 送信元と宛先の Firepower Threat Defense デバイスが同じモデルであり、同じバージョンの Firepower ソフトウェアを実行している。
- 送信元がスタンダオン Firepower Threat Defense デバイスまたは Firepower Threat Defense 高可用性ペアである。
- 宛先のデバイスがスタンダオン Firepower Threat Defense デバイスである。
- 送信元と宛先の Firepower Threat Defense デバイスに同じ数の物理インターフェイスがある。
- 送信元と宛先の Firepower Threat Defense デバイスが同じファイアウォール モード（ルーテッドまたはトランスペアレント）になっている。
- 送信元と宛先の Firepower Threat Defense デバイスが同じセキュリティ認定コンプライアンスモードになっている。
- 送信元と宛先の Firepower Threat Defense デバイスが同じドメインにある。
- 送信元または宛先 Firepower Threat Defense デバイスのいずれでも設定の展開が進行中ではない。

## 手順の概要

1. **[Devices] > [Device Management]** を選択します。
2. 変更するデバイスの横にある編集アイコン (  ) をクリックします。
3. **[デバイス (Device) ]** をクリックします。
4. **[全般 (General) ]** セクションで、次のいずれかの操作を実行します。
  - **[デバイス設定の取得 (Get Device Configuration) ]** アイコン (  ) をクリックして、別のデバイスのデバイス設定を新しいデバイスにコピーします。[デバイス設定の取得 (Get Device Configuration) ] ページの **[デバイスの選択 (Select Device) ]** ドロップダウン リストで、送信元デバイスを選択します。
  - **[デバイス設定のプッシュ (Push Device Configuration) ]** アイコン (  ) をクリックして、現在のデバイスのデバイス設定を新しいデバイスにコピーします。[デバイス設定のプッシュ (Push Device Configuration) ] ページの **[ターゲットデバイス (Target Device) ]** ドロップダウン リストで、設定をコピーする宛先を選択します。
5. (オプション) **[共有ポリシーの設定を含める (Include shared policies configuration) ]** チェックボックスを選択して、ポリシーをコピーします。
6. **[OK]** をクリックします。

## 手順の詳細

ステップ 1 **[Devices] > [Device Management]** を選択します。

**ステップ 2** 変更するデバイスの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められません。

**ステップ 3** [デバイス (Device)] をクリックします。

**ステップ 4** [全般 (General)] セクションで、次のいずれかの操作を実行します。

- [デバイス設定の取得 (Get Device Configuration)] アイコン (⬇️⚙️) をクリックして、別のデバイスのデバイス設定を新しいデバイスにコピーします。[デバイス設定の取得 (Get Device Configuration)] ページの[デバイスの選択 (Select Device)] ドロップダウンリストで、送信元デバイスを選択します。
- [デバイス設定のプッシュ (Push Device Configuration)] アイコン (⬆️⚙️) をクリックして、現在のデバイスのデバイス設定を新しいデバイスにコピーします。[デバイス設定のプッシュ (Push Device Configuration)] ページの[ターゲットデバイス (Target Device)] ドロップダウンリストで、設定をコピーする宛先を選択します。

**ステップ 5** (オプション) [共有ポリシーの設定を含める (Include shared policies configuration)] チェックボックスを選択して、ポリシーをコピーします。

AC ポリシー、NAT、プラットフォーム設定、および FlexConfig ポリシーなどの共有ポリシーは、複数のデバイス間で共有できます。

**ステップ 6** [OK] をクリックします。

デバイス設定のコピー タスクのステータスは、メッセージセンターの[タスク (Tasks)] タブでモニタできます。

デバイス設定のコピー タスクが開始されると、ターゲット デバイスの設定が削除され、送信元デバイスの設定が宛先のデバイスにコピーされます。



**警告** デバイス設定のコピー タスクの完了後に、ターゲット デバイスを元の設定に戻すことはできません。

## デバイス ライセンスの有効化と無効化

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	リーフのみ	Admin/Network Admin

Firepower Management Center で使用可能なライセンスがある場合、デバイスでそのライセンスを有効にすることができます。

**ステップ 1** [Devices] > [Device Management] を選択します。

**ステップ 2** ライセンスを有効または無効にするデバイスの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。

**ステップ 3** [デバイス (Device) ] タブをクリックします。

**ヒント** スタック構成のデバイスの場合、アプライアンス エディタの [スタック (Stack) ] ページで、スタックに対してライセンスを有効または無効にします。

**ステップ 4** [ライセンス (License) ] セクションで、編集アイコン (✎) をクリックします。

**ステップ 5** 管理対象デバイスに対して有効または無効にするライセンスの横にあるチェックボックスをオンまたはオフにします。

**ステップ 6** [保存 (Save) ] をクリックします。

#### 次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

#### 関連トピック

[Firepower ライセンスについて](#)

## 詳細なデバイス設定の編集

アプリケーション バイパス、ローカル ルータ トラフィックのインスペクション、および高速パスのルールを設定できます。

### 自動アプリケーションバイパスの設定

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	リーフのみ	Admin Network Admin

Automatic Application Bypass (AAB) 機能は、インターフェイスでのパケット処理時間に制限を設け、この時間を超過した場合、パケットに検出のバイパスを許可します。この機能は任意の展開で使用できますが、インライン展開ではとりわけ価値があります。

パケット処理の遅延は、ネットワークで許容できるパケットレイテンシとバランスを取って調整します。Snort 内での不具合やデバイスの誤った設定が原因で、トラフィックの処理時間が指定のしきい値を超えると、AABにより、その障害発生から 10分以内に Snort が再起動され、

トラブルシューティングデータが生成されます。このデータを分析することで、過剰な処理時間の原因を調査できます。

一般に、遅延しきい値を超えた後は、高速パス パケットに対して侵入ポリシーの [ルール遅延しきい値 (Rule Latency Thresholding)] を使用します。[ルール遅延しきい値 (Rule Latency Thresholding)] により、エンジンがシャットダウンされたり、しきい値データが生成されることはありません。

検出がバイパスされると、デバイスがヘルス モニタリング アラートを生成します。

AAB はデフォルトで無効になっています。AAB を有効にするには、次の手順を実行します。



**注意** 単一パケットに過剰な処理時間がかかっている場合、AAB がアクティブになります。AAB のアクティブ化は、いくつかのパケットのインスペクションを一時的に中断する Snort プロセスを部分的に再起動します。この中断中にトラフィックがドロップされるか、それ以上インスペクションが行われずに受け渡されるかは、ターゲットデバイスがトラフィックを処理する方法に応じて異なります。詳細は [Snort® の再起動によるトラフィックの動作](#) を参照してください。

**ステップ 1** [Devices] > [Device Management] を選択します。

**ステップ 2** 高度なデバイス設定を編集するデバイスの横にある編集アイコン (🔧) をクリックします。

マルチドメイン展開では、リーフ ドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。

**ステップ 3** [デバイス (Device)] タブ (またはスタック構成のデバイスの場合は [スタック (Stack)] タブ) をクリックし、[詳細 (Advanced)] セクションの編集アイコン (🔧) をクリックします。

**ステップ 4** [自動アプリケーションバイパス (Automatic Application Bypass)] をオンにします。

**ステップ 5** [バイパスしきい値 (Bypass Threshold)] に 250 ~ 60,000 ミリ秒を入力します。デフォルト設定は 3000 ミリ秒 (ms) です。

**ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

#### 次のタスク

- 設定変更を展開します。 [設定変更の展開](#) を参照してください。

## ローカルルータ トラフィックの検査

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	7000 & 8000 シリーズ	リーフのみ	Admin/Network Admin

ローカル内トラフィックがレイヤ3展開のモニターールと一致する場合、そのトラフィックは検査をバイパスすることがあります。トラフィックの検査を確認するには、[ローカルルータ トラフィックの検査 (Inspect Local Router Traffic)] を有効にします。

**ステップ 1** [Devices] > [Device Management] を選択します。

**ステップ 2** 高度なデバイス設定を編集するデバイスの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められません。

**ステップ 3** [デバイス (Devices)] タブ (スタック構成のデバイスの場合は [スタック (Stack)] タブ) をクリックして、[詳細 (Advanced)] セクションの編集アイコン (✎) をクリックします。

**ステップ 4** 7000 または 8000 シリーズ デバイスがルータとして展開されている場合は、[ローカルルータ トラフィックの検査] をオンにして、例外トラフィックを検査します。

**ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

#### 次のタスク

- 設定変更を展開します。 [設定変更の展開](#) を参照してください。

### 高速パス ルールの設定 (8000 シリーズ)

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
該当なし	いずれか (Any)	8000 シリーズ	リーフのみ	Admin/Network Admin

トラフィック処理の初期形式として、8000 シリーズ高速パス ルールでは、それ以上のインスペクションやロギングを行わずに 8000 シリーズ デバイスを介してトラフィックを直接送信できます。(パッシブ展開では、8000 シリーズ高速パス ルールは単に分析を停止します)。各 8000 シリーズ高速パス ルールは、特定のセキュリティゾーンまたはインラインインターフェイスセットに適用されます。8000 シリーズ高速パス ルールはハードウェア レベルで機能するため、高速パス トラフィックには、次の単純な外部ヘッダーの基準のみを使用できます。

- イニシエータおよびレスポнда IP アドレスまたはアドレス ブロック
- プロトコル、および TCP と UDP の場合は、発信側および応答側のポート
- VLAN ID (Admin. VLAN ID)

デフォルトでは、8000 シリーズ高速パス ルールは指定した発信側から指定した応答側への接続に影響します。ルールの基準を満たすすべての接続を高速パス処理するには、どちらのホストが発信側か応答側かに関係なく、ルールを双方向にすることができます。



(注) 同様の機能を実行しますが、8000 シリーズ高速パス ルールはプレフィルタ ポリシーで設定する高速パス トンネルやプレフィルタ ルールに関連しません。



(注) [任意 (Any) ]以外のポートを TCP または UDP のトラフィックに指定すると、一致するフラグメント化トラフィックの最初のフラグメントのみに高速パスの処理が実行されます。その他のすべてのフラグメントは転送され、さらに詳しい検査が行われます。これは、高速パスルールに一致する必要があるすべての IP ヘッダー情報が各フラグメントの IP ヘッダーに含まれており、後続のフラグメントにはポートを識別するフィールドが含まれていない場合、8000 シリーズはフラグメント化されたトラフィックのみに高速パス処理を実行するためです。

**ステップ 1** [Devices] > [Device Management]を選択します。

**ステップ 2** ルールを設定する 8000 シリーズデバイスの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められます。

**ステップ 3** [デバイス (Device) ]タブ (またはスタック構成のデバイスの場合は[スタック (Stack) ]タブ) をクリックし、[詳細 (Advanced) ]セクションの編集アイコン (✎) をクリックします。

**ステップ 4** [新しい IPv4 ルール (New IPv4 Rule) ]または[新しい IPv6 ルール (New IPv6 Rule) ]をクリックします。

**ステップ 5** [ドメイン (Domain) ]ドロップダウンリストから、インラインセットまたはパッシブセキュリティゾーンを選択します。

**ステップ 6** 高速パス処理するトラフィックを設定します。トラフィックは高速パス処理のためのすべての条件を満たしている必要があります。

- [イニシエータ (Initiator) ]および[レスポнда (Responder) ] (必須) : 発信側および応答側の IP アドレスまたはアドレスブロックを入力します。
- [プロトコル (Protocol) ]: プロトコルを選択するか、[すべて (All) ]を選択します。
- [イニシエータポート (Initiator Port) ]および[レスポндаポート (Responder Port) ]: TCP および UDP トラフィックの場合は、イニシエータポートとレスポндаポートを入力します。フィールドを空白のままにするか、**Any** と入力して、すべての TCP または UDP トラフィックに一致するようにします。ポートのカンマ区切りリストを入力できますが、ポート範囲を入力することはできません。
- [VLAN ID] : VLAN ID を入力します。フィールドを空白のままにするか、**Any** と入力して、VLAN タグに関係なくすべてのトラフィックに一致するようにします。

**ステップ 7** (オプション) ルールを [双方向 (Bidirectional) ]にします。

**ステップ 8** [保存 (Save) ]をクリックしてから、もう一度 [保存 (Save) ]をクリックします。

次のタスク

設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

## システム シャットダウンの管理

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	すべて (ASA FirePOWER を除く)	リーフのみ	Admin/Network Admin



(注) Firepower システムのユーザインターフェイスでは、ASA FirePOWER のシャットダウンまたは再起動はできません。それぞれのデバイスをシャットダウンする方法の詳細については、ASA の資料を参照してください。

**ステップ 1** [Devices] > [Device Management] を選択します。

**ステップ 2** 再起動するデバイスの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

マルチドメイン展開では、リーフドメインにいない場合、システムによって切り替えるように求められません。

**ステップ 3** [デバイス (Device) ] タブをクリックします。

**ヒント** スタックに含まれるデバイスの場合、アプライアンス エディタの [デバイス (Devices) ] ページで、個々のデバイスをシャットダウンまたは再起動します。

**ステップ 4** デバイスをシャットダウンするには、[システム (System) ] セクションでデバイスのシャットダウンアイコン (🔴) をクリックします。

**ステップ 5** プロンプトが表示されたら、デバイスのシャットダウンを確認します。

**ステップ 6** デバイスを再起動するには、デバイスの再起動アイコン (🔄) をクリックします。





**ステップ 7** プロンプトが表示されたら、デバイスを再起動することを確認します。

## インターフェイス テーブル ビュー

ハードウェア ビューの下にあるインターフェイス テーブル ビューには、デバイスで使用可能なすべてのインターフェイスが一覧表示されます。テーブル内のナビゲーションツリーを展開すると、設定されているすべてのインターフェイスを表示できます。インターフェイスの横に

ある矢印アイコンをクリックして、インターフェイスを縮小または展開することで、サブコンポーネントの非表示/表示を切り替えることができます。このインターフェイステーブルビューには、各インターフェイスに関する要約情報も表示されます。

表 7: 従来のデバイスのインターフェイス

フィールド	説明
Name	<p>各インターフェイスタイプは、タイプとリンクステート（該当する場合）を示す固有のアイコンによって表されます。名前またはアイコンの上にポインタを置くと、追加情報を含むツールチップが表示されます。インターフェイス アイコンについては、<a href="#">インターフェイス アイコン</a>を参照してください。</p> <p>アイコンでは、インターフェイスの現在のリンク状態を示す表示方法が使用されています。次の3つの状態のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• エラー </li> <li>• 障害 </li> <li>• 使用不可 </li> </ul> <p>論理インターフェイスのリンク状態は、親物理インターフェイスのリンク状態と同じです。ASA FirePOWER モジュールはリンク状態を表示しません。無効化されたインターフェイスは、半透明のアイコンで表されます。</p> <p>アイコンの右側に表示されるインターフェイス名は自動生成されます。ただし、ハイブリッドインターフェイスと ASA FirePOWER インターフェイスの名前はユーザが定義します。ASA FirePOWER インターフェイスについては、名前が付けられており、リンクを持つ有効なインターフェイスのみが表示されることに注意してください。</p> <p>物理インターフェイスでは、物理インターフェイスの名前が表示されます。論理インターフェイスでは、物理インターフェイスの名前と、割り当てられている VLAN タグが表示されます。</p> <p>ASA FirePOWER インターフェイスでは、複数のセキュリティ コンテキストがある場合は、セキュリティ コンテキストの名前とインターフェイスの名前が表示されます。セキュリティ コンテキストが1つしかない場合は、インターフェイスの名前のみが表示されます。</p>
セキュリティゾーン (Security Zone)	<p>インターフェイスが割り当てられているセキュリティゾーン。セキュリティゾーンを追加または編集するには、編集アイコン  をクリックします。</p>
[Used by]	<p>インターフェイスが割り当てられているインラインセット、仮想スイッチ、または仮想ルータ。</p>



フィールド	説明
MAC アドレス (MAC Address)	スイッチド機能およびルーテッド機能で有効にされているインターフェイスに対して表示される MAC アドレス。  NGIPSv デバイスの場合、表示された MAC アドレスにより、デバイス上に設定されたネットワーク アダプタと、[インターフェイス (Interfaces)] ページに表示されるインターフェイスを対応させることができます。
IP アドレス (7000/8000 シリーズのみ)	インターフェイスに割り当てられた IP アドレス。マウスのポインタを IP アドレスの上に重ねると、その IP アドレスがアクティブであるかを確認できます。非アクティブな IP アドレスはグレー表示されます。

表 8:FTD インターフェイス

フィールド	説明
インターフェイス	インターフェイス ID。フェールオーバー リンクまたはクラスタ制御リンクのインターフェイスの場合、インターフェイス設定は表示専用です。
論理名 (Logical Name)	インターフェイスの構成名。
タイプ (Type)	インターフェイスのタイプ：[物理 (Physical)]、[サブインターフェイス (SubInterface)]、[EtherChannel]、[冗長 (Redundant)]、または[ブリッジグループ (BridgeGroup)] (トランスペアレントファイアウォールモードのみ)。
インターフェイスオブジェクト (Interface Object)	インターフェイスが割り当てられているセキュリティゾーンまたはインターフェイス グループ。
MAC アドレス (MAC Address) (アクティブ/スタンバイ)	インターフェイスの MAC アドレス。高可用性の場合、アクティブな MAC アドレスとスタンバイ状態の MAC アドレスの両方が表示されます。
[IP アドレス (IP Address)]	インターフェイスに割り当てられている IP アドレス。括弧で示されるアドレス割り当てのタイプ：[静的 (Static)]、[DHCP]、または [PPPoE]。

## デバイス グループ管理

Firepower Management Center でデバイスをグループ化すると、複数のデバイスへのポリシーの展開やアップデートのインストールを簡単に行えます。グループに属するデバイスのリストは、展開または縮小表示できます。デフォルトでは、このリストは縮小表示されます。

マルチドメイン展開では、リーフドメイン内でのみデバイスグループを作成できます。Firepower Management Center をマルチテナンシー向けに設定すると既存のデバイスグループは削除されます。デバイスグループはリーフドメインレベルで再度追加できます。

## デバイスグループの追加

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	リーフのみ	Admin/Network Admin

デバイスグループにより、複数デバイスへのポリシーの割り当てとインストール更新が簡単にできます。

スタック内またはハイアベイラビリティペア内のプライマリデバイスをグループに追加すると、両方のデバイスがグループに追加されます。デバイスのスタック構成を解除またはハイアベイラビリティペアを分解しても、これらのデバイスは両方ともグループに属したままになります。

**ステップ 1** [Devices] > [Device Management] を選択します。

**ステップ 2** [追加 (Add)] ドロップダウンメニューから、[グループの追加 (Add Group)] を選択します。

**ステップ 3** 名前を入力します。

**ステップ 4** [使用可能なデバイス (Available Devices)] から、デバイスグループに追加するデバイスを 1 つ以上選択します。複数のデバイスを選択する場合は、Ctrl または Shift キーを押しながらクリックします。

**ステップ 5** [追加 (Add)] をクリックして、選択したデバイスをデバイスグループに追加します。

**ステップ 6** [OK] をクリックして、デバイスグループを追加します。

## デバイスグループの編集

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス数	サポートされるドメイン数	アクセス
いずれか (Any)	いずれか (Any)	いずれか (Any)	リーフのみ	Admin/Network Admin

任意のデバイスグループに含まれる一連のデバイスを変更できます。アプライアンスは、現行のグループから削除してからでないと、新しいグループに追加できません。

アプライアンスを新しいグループに移動しても、そのアプライアンスのポリシーが、新しいグループにすでに割り当てられているポリシーに変更される訳ではありません。グループのポリシーを新しいデバイスに割り当てる必要があります。

スタック内またはデバイスのハイ アベイラビリティ ペア内のプライマリ デバイスをグループに追加すると、両方のデバイスがグループに追加されます。デバイスのスタック構成を解除またはハイ アベイラビリティ ペアを分解しても、これらのデバイスは両方ともグループに属したままになります。

マルチドメイン展開では、デバイスグループは、それらが作成されたドメイン内でのみ編集できます。

**ステップ 1** [Devices] > [Device Management] を選択します。

**ステップ 2** 編集するデバイス グループの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

**ステップ 3** 必要に応じて、[名前 (Name)] フィールドに、グループの新しい名前を入力します。

**ステップ 4** [使用可能なデバイス (Available Devices)] から、デバイス グループに追加するデバイスを 1 つ以上選択します。複数のデバイスを選択する場合は、Ctrl または Shift キーを押しながらクリックします。

**ステップ 5** [追加 (Add)] をクリックして、選択したデバイスをデバイス グループに追加します。

**ステップ 6** 必要に応じて、デバイスグループからデバイスを削除するには、削除するデバイスの横にある削除アイコン (✖) をクリックします。

**ステップ 7** [OK] をクリックして、デバイス グループに加えた変更を保存します。

## Firepower 1000/2100 シリーズの SNMP の設定

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) は、SNMP マネージャとエージェント間の通信用メッセージフォーマットを提供する、アプリケーションレイヤプロトコルです。SNMP では、ネットワーク内のデバイスのモニタリングと管理に使用する標準フレームワークと共通言語が提供されます。

SNMP フレームワークは 3 つの部分で構成されます。

- **SNMP マネージャ** : SNMP を使用してネットワークデバイスのアクティビティを制御し、モニタリングするシステム。
- **SNMP エージェント** : Firepower シャーシのデータを維持し、必要に応じてそのデータを SNMP マネージャに報告する Firepower 1000/2100 シャーシ内のソフトウェア コンポーネント。Firepower シャーシには、エージェントと一連の MIB が含まれています。SNMP エージェントを有効にし、マネージャとエージェント間のリレーションシップを作成するには、Firepower Management Center で SNMP を有効にし、設定します。
- **管理情報ベース (MIB)** : SNMP エージェント上の管理対象オブジェクトのコレクション。

Firepower 1000/2100 シャーシは、SNMPv1、SNMPv2c、および SNMPv3 をサポートします。SNMPv1 および SNMPv2c はどちらも、コミュニティベース形式のセキュリティを使用します。

## Firepower 1000/2100 の SNMP の有効化と SNMP プロパティの設定



(注) この手順は、Firepower 2100 と Firepower 1000 シリーズのデバイスのみ適用されます。

ステップ 1 [デバイス (Devices) ] > [デバイス管理 (Device Management) ] を選択します。

ステップ 2 [SNMP] タブをクリックします。

ステップ 3 次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Admin State] チェックボックス	SNMP が有効化かディセーブルか。システムに SNMP サーバとの統合が含まれる場合にだけこのサービスをイネーブルにします。
[Port] フィールド	Firepower シャーシが SNMP ホストと通信するためのポート。デフォルトポートは変更できません。
[コミュニティ (Community) ] フィールド	Firepower シャーシが SNMP ホストに送信するトラップメッセージに含まれるデフォルトの SNMP v1 または v2 コミュニティの名前、あるいは SNMP v3 のユーザ名。  1 ~ 32 文字の英数字文字列を入力します。@ (アットマーク)、\ (バックスラッシュ)、" (二重引用符)、? (疑問符) または空欄スペースは使用しないでください。デフォルトは <b>public</b> です。  [コミュニティ (Community) ] フィールドがすでに設定されている場合、空白フィールドの右側のテキストは [設定 : はい (Set: Yes) ] となることに注意してください。[コミュニティ (Community) ] フィールドに値が入力されていない場合、空白フィールドの右側のテキストは [設定 : いいえ (Set: No) ] となります。
[システム管理者名 (System Admin Name) ] フィールド	SNMP 実装の担当者の連絡先。  電子メールアドレス、名前、電話番号など、255 文字までの文字列を入力します。
[Location] フィールド	SNMP エージェント (サーバ) が実行するホストの場所。  最大 510 文字の英数字を入力します。

ステップ 4 [Save] をクリックします。

### 次のタスク

SNMP トラップおよびユーザを作成します。

## Firepower 1000/2100 の SNMP トラップの作成



(注) この手順は、Firepower 2100 と Firepower 1000 シリーズのデバイスのみ適用されます。

ステップ 1 [デバイス (Devices) ] > [デバイス管理 (Device Management) ] を選択します。

ステップ 2 [SNMP] タブをクリックします。

ステップ 3 [SNMP トラップ設定 (SNMP Traps Configuration) ] 領域で、[追加 (Add) ] をクリックします。

ステップ 4 [SNMP トラップ設定 (SNMP Trap Configuration) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Host Name] フィールド	Firepower シャーシからのトラップを受信する SNMP ホストのホスト名または IP アドレス。
[コミュニティ (Community) ] フィールド	Firepower シャーシが SNMP ホストに送信するトラップに含める SNMP v1 または v2 コミュニティ名あるいは SNMP v3 ユーザ名。これは、SNMP サービスに設定されたコミュニティまたはユーザ名と同じである必要があります。  1 ~ 32 文字の英数字文字列を入力します。@ (アットマーク)、\ (バックスラッシュ)、" (二重引用符)、? (疑問符) または空欄スペースは使用しないでください。
[Port] フィールド	Firepower シャーシが SNMP ホストとのトラップの通信に使用するポート。  1 ~ 65535 の整数を入力します。
[Version] フィールド	トラップに使用される SNMP バージョンおよびモデル。次のいずれかになります。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• V1</li> <li>• [V2]</li> <li>• [V3]</li> </ul>
[Type] フィールド	バージョンとして [V2] または [V3] を選択した場合に、送信するトラップのタイプ。次のいずれかになります。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Traps]</li> <li>• nforms</li> </ul>

名前	説明
[特権 (Privilege) ] フィールド	バージョンとして [V3] を選択した場合に、トラップに関連付ける権限。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Auth] : 認証あり、暗号化なし</li> <li>• [Noauth] : 認証なし、暗号化なし</li> <li>• [Priv] : 認証あり、暗号化あり</li> </ul>

ステップ 5 [OK] をクリックして、[SNMP トラップ設定 (SNMP Trap Configuration) ] ダイアログボックスを閉じます。

ステップ 6 [保存 (Save) ] をクリックします。

## Firepower 1000/2100 の SNMP ユーザの作成



(注) この手順は、Firepower 2100 と Firepower 1000 シリーズのデバイスのみ適用されます。

ステップ 1 [デバイス (Devices) ] > [デバイス管理 (Device Management) ] を選択します。

ステップ 2 [SNMP] タブをクリックします。

ステップ 3 [SNMP ユーザ設定 (SNMP Users Configuration) ] 領域で、[追加 (Add) ] をクリックします。

ステップ 4 [SNMP ユーザ設定 (SNMP User Configuration) ] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Username] フィールド	SNMP ユーザに割り当てられるユーザ名。 32文字までの文字または数字を入力します。名前は文字で始まる必要があります、_ (アンダースコア) 、. (ピリオド) 、@ (アットマーク) 、- (ハイフン) も指定できます。
[認証アルゴリズム タイプ (Auth Algorithm Type) ] フィールド	許可タイプ : <b>SHA</b> 。
[AES-128 を使用 (Use AES-128) ] チェックボックス	オンにすると、このユーザに AES-128 暗号化が使用されます。
[認証パスワード (Authentication Password) ] フィールド	ユーザのパスワード。
[確認 (Confirm) ] フィールド	確認のためのパスワードの再入力。

名前	説明
[暗号化パスワード (Encryption Password) ] フィールド	ユーザのプライバシー パスワード。
[確認 (Confirm) ] フィールド	確認のためのプライバシー パスワードの再入力。

**ステップ 5** [OK] をクリックして、[SNMP ユーザ設定 (SNMP User Configuration) ] ダイアログボックスを閉じます。

**ステップ 6** [保存 (Save) ] をクリックします。

---

